指定管理者になりました！

ＮＰＯ法人おおさき地域創造研究会
事務局長　小玉　順子（せん杜理事）

わたしの住む大崎市の秋といえば、黄金色に実った稲穂の風景です。あぁ今年も無事収穫できてよかった。稲の収穫時期は稲の穂が出始めた頃から、積算温度が約 1000 度になった頃が収穫適期と言われています。今年は高温が続いたせいか 10 日ほど早い稲刈りになりました。気候変動も植物が知らせてくれているようです。

今年 4 月から「大崎市市民活動サポートセンター」の指定管理者として選定され運営をおこなっています。3月31 日に前任の団体から引継ぎました。まさに居抜きで入居したわけですが、「人だけ変わったの」と言われたくはない、私たちらしさをどう醸し出すかと考えているうちに半年が過ぎてしまいました。この間にコロナの感染も他人事ではなく、組織としての危機管理や利用者様への対応に追われた日々も経験しました。

市民活動サポートセンターの今は、全国的に見てもかつてほどの賑わいは正直ありません。もっと若者層を取り込みたいとスタッフを 20 歳代から 30 歳代を厚くし、Wi−Fi 機能も充実。オンライン会議を日々実践して力を付けるのは、必要に迫られてのはずだったのに、移動しなくてもいい便利さから、「これでいい」が日常化しはじめます。コロナの経験がこれからの常識を変えていく。とはいえ、人と人の距離感や対面で察知する五感を衰えさせるわけにはいかないとあがいています。

ところで以前から耳にしている言葉だと思いますが、皆さんのまわりで「連携」や「ネットワーク」という言葉が頻繁に口から出ていませんか。一人ではできないことだし、かといって自然にできあがるものでもないですから。何か中間で動いている人がいるのだろうとは思いますよね。

現在、私たち研究会が世話人となって宮城県内の市町村移住相談窓口担当者とおこなっている「ステークホルダー・ネットワーク・マネジメント」と呼ぶ緩やかな連携の場があります。担当者は言ってみれば敵同士。でも互いが互いの活動を支援しつつ協力して目的の「移住者を増やす」ことを達成していくというものです。現在進行形ですが、みんな仲良しで活動中です。

アニメのドラゴンボールを例にした「ドラゴンボール・モデル」は、ヒーローの主人公とその一部の仲間だけが大活躍する物語。「ワンピース・モデル」は仲間がみな違う目的・夢を持っていて、得意な場や相手で闘う、闘いは分散型で多くのヒーローが生まれるやり方です。なかなかこの文章だけでは伝えきれませんが、協力者それぞれも目的達成していくという手法です。ニューヨークセントラルパークが8,000 人のボランティアで管理運営し、340h の広さをきれいに維持できているのはこの仕組みです。このネットワークがある、または生むことのできる地域は、温かい人々のつながりがあると思っています。

ぜひこの「ステークホルダー・ネットワーク・マネジメント」を大崎市市民活動サポートセンターで「場」を提供しますので、楽しく学び合いませんか。